

## 会 議 録 (要旨)

会議の名称	令和5年度 第1回 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会
開催日時	令和5年6月27日(火曜日) 午後3時00分から午後4時40分まで
開催場所	小平市役所 601会議室
出席者	委員11名(うち公募委員5名) 欠席3名 傍聴者1名
会議資料	<p>◆資料1 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会委員名簿</p> <p>◆資料2 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン検討委員会設置要綱</p> <p>◆資料3 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン策定の基本方針について</p> <p>◆資料4 小平市こだいら観光まちづくり振興プラン策定全体スケジュール</p> <p>◆資料5 小平市観光まちづくり振興プラン(平成26年3月発行)の概要・実態調査について</p> <p>◆資料6 小平市観光まちづくり振興プラン(平成26年3月発行)の検証について</p> <p>*</p> <p>◆参考資料① 小平市観光まちづくり振興プラン策定の経緯</p> <p>◆参考資料② 小平市観光まちづくり振興プラン(素案)に対するパブリックコメントの実施結果について</p> <p>◆参考資料③ 「観光まちづくり」とは</p> <p>◆参考資料④ 住んでよし訪れてよし</p>
説明事項	<p>1. 小平市こだいら観光まちづくり振興プランの策定について</p> <p>(1) 計画策定の基本方針について</p> <p>(2) 全体スケジュールについて</p> <p>(3) 現行プランの概要・実態調査について</p> <p>(4) 計画の検証について</p>

● 会議事項

1. 計画策定の基本方針について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「小平市こだいら観光まちづくり振興プラン策定の基本方針について」【資料3】
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年の3月で終了する現計画は、期間を10年間としているところを、第2次の計画では期間を4年間と定めているのはなぜか。</li> <li>・スケジュールについて、月は書いてあるが、具体的な日は書いてないが、日は決まっていないのか。それとも年間スケジュールで日にちも決まっているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年と定めている理由について、上位計画に産業振興基本計画があり、4年後に終了する。観光まちづくり振興プランもそれに合わせて格上げをして、産業振興基本計画の中に合わせて入れていければとの意見があり、我々としても上位計画の方に入っていくと考えているところで、産業振興基本計画が終わる4年後を1つの区切りにしている。</li> <li>・スケジュールについて、具体的な日時については、1か月前辺りに、委員の都合を確認してからという形になる。</li> </ul>

2. 全体スケジュールについて	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：「小平市こだいら観光まちづくり振興プラン策定全体スケジュールについて」【資料4】
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の会議の開催場所は。</li> <li>・前回の計画作成時には13回、会議が行われているが、今回は会議の回数が少なく、スケジュールが拙速に感じるかどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の開催場所は福社会館を予定している。</li> <li>・前回はゼロからのスタートで、1年では間に合わず、2年かかってしまったが、今回は前回のものをベースにできるので、市では基本的に1年で計画策定をすると示されているので、当初は検討委員会を4回でという話であったが、それを何とか財政当局と調整をして6回まで予定することができたので、何とか理解していただきたい。</li> </ul>

3. 現行プランの概要・実態調査について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	◆資料説明：小平市観光まちづくり振興プラン（平成26年3月発行）の概要・実態調査について【資料5】

委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 50 のアクションプランについて、8・16・47 番について、10 年間検討のマークがついていて、アクションではなく、検討という形になっているが、前回参加された方に、どういう背景があるのか教えていただきたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8・47 番は、施設や箱物で、計画を作った時点で、予算的な措置が難しいのではないかと、数年で出来るかどうか分からないということで、10 年間で出来たらいいなというある種の願望ということも含めて入れた。現状としては、商店街の中に観光まちづくり協会があり、案内所になっているので、8 番は何とかクリアしていると思っている。47 番の特産品が提供できる施設づくりに関しては、当時はムーちゃん広場がリニューアルする前であったが、その後リニューアルして、特産品を購入できる施設となっている。16 番のアニメの誘致に関しては、実際に出来るかどうか、いわゆるフィルムコミッションについては、観光まちづくりに載せるのか、別建てで作っていくのかというのがあり、撮影を誘致したときは、どちらかという行政の方で根回しできていないと、円滑に出来ないというのがあるので、出来たらいいなというのがあるが、ここよりも観光まちづくり協会のような組織を作って、その後の様子を見ながらという部分があったので、このような形になっている。実際 16 番については出来ていないので、他の 50 のプランと比べて弱かったと思う。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜ質問をしたかということ、検討となっても、アクションをしてそれなりの成果を出しているということで、その成果については 2 回目の時に振り返りという形になると理解している。質問をしたのは、4 年間という期間の中で、何かしらの成果を出すという意味からすると、かなり現実的なアクションにしないといけないのかと思ったので、出来ればいいなというようなものも、入るのかどうかを確認したかった。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どれくらい現実味のある計画にするのかは、委員会の中でも議論したいと思う。今回は 4 年間の計画だが、その中に次の上位計画を見据えてというのがるので、その上位計画との関係というのもきっと出てくると思う。16 番の誘致については、うちの大学も撮影場所になることが多く、意外と知らないだけかもしれない。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 撮影はしているかもしれないが、誘致というのは少ないのが現状である。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報をどのように集め、アピールするのもも含めて議論できればと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映画まではいかないが、ドラマ撮影では小平市はかなりよく使われている。フィルムコミッションについては一元管理を市ではしていないので、直接テレビ会社が農家や不動産屋に行くので、直で行かれると市では管理できないということで、その辺は今後体制づくりを考えていく必要がある。</li> </ul>

4. 計画の検証について	
発 言 者	会 議 内 容
【事務局】	<p>◆資料説明：小平市観光まちづくり振興プラン（平成26年3月発行）の検証について【資料6】</p> <p>小平市観光まちづくり振興プラン策定の経緯【参考資料①】</p> <p>小平市観光まちづくり振興プラン（素案）に対するパブリックコメントの実施結果について【参考資料②】</p>
委 員	<p>◆資料説明：「観光まちづくり」とは【参考資料③】</p> <p>住んでよし訪れてよし【参考資料④】</p>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年前に観光まちづくりと聞いたときは、馴染まなくて、観光なのかまちづくりなのかと思ったが、最終はまちづくりであると思っている。小平は特殊な環境で、大学が多いので23歳位までの人口が多く、どうやったら小平市に住み続けてもらえるか。市の人口は20万になったが、面積から考えると30万以上のポテンシャルのあるまちだと思う。人が増えればいいという問題でもないが、住み続けたい、楽しいということで、観光にも繋がればいいと思っている。全体を見直す中で、協議していただきたいのは、キャッチフレーズの部分で、「都会から一番近いプチ田舎」というのは、これは協議を重ねたが、小平で生まれて育った人が私を含め3人いて、なかなかキャッチフレーズに馴染めないまま決まった経緯があった。果たしてこの10年、このキャッチフレーズが持っていた魅力と、まちが進んできた方向、これから住もうと思っている人に対して、このキャッチフレーズのままで人口が増えるのか、楽しいのか協議して、基本理念を変えてほしいのではなく、キャッチフレーズを検討してほしい。</li> <li>・前回計画時のコンサルはほとんど小平のことを知らなかったもので、今回来られている2人のコンサルには、出来るだけ小平市を歩いて、目で見て調べてほしい。行かないとそのまちの魅力はわからない。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も観光と聞いたときに、観光地のイメージしかなかったもので、今回まちづくりに向かっていくという姿勢が見えたので、改めて考えてみたいと思った。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の新聞の記事にあった「観光を観光で考えては、観光の答えは出ない」というのは、その通りだと思ったし、小平の魅力を住民自身が理解し、誇りに思っ、それを周りにお裾分けしたくなるような、郷土愛・地元愛を高めることが、長期的には観光の呼び水になると思ったので、私も小平の北側にはあまり行ったことがないので、自分で行って勉強したいと思う。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回初めて参加して、学術的な部分と、実際の肌感覚の部分の経緯を聞いて、両方の部分を理解しながら、前のものを全く無視してというのも違うと思うし、その当時の議論もしっかりと踏まえて、良いものを作っていければと改めて感じた。</li> </ul>

委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考資料③の図1について、100%同意する。今後も色々と協力していきたい。</li> </ul>
コンサル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な熱意ある思いをいただいたので、志を共にしながら策定支援させていただきたい。</li> </ul>
コンサル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンサルが作る計画は絵にかいた餅だとよく言われるが、実効性のある計画にしていきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役所で仕事をしていると、観光まちづくりについて、皆さんの真摯な意見や熱意を耳にする機会があるようでないので、今日ここで皆さんと共通のテーマを持って話しできて、意見を聞けたのは、糧となった。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆さんから熱い意見をいただき、身の引き締まる思いだが、農家の方に聞いた話では、農家は相続で土地を売る機会が多く、プチ田舎というのが付いていると、土地の価値が下がるので非常に迷惑だという意見があった。それはあくまで農家側の意見であって、小平が良くて引っ越してきた方からすれば、ちょっとした田舎で良いという人もいるし、商店街の方からすると、観光に行く人がプチ田舎に行かず、田舎に行くと言う人もいる。いろんな意見があるので、皆さんに協議していただいて、今回大学生の方もいるので、これだけ幅広い人材が揃った委員会というのは、初めてではないかと思うので、いろんな意見が出て、その辺を揉んでいただければと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のプランには子どもの計画や男女共同参画など様々ありますが、今回観光まちづくり振興プランは楽しいプランとして、人を幸せにする、人を楽しませるプランに携われて、幸せに感じている。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人的にはキャッチフレーズを変えた方がいいと思う。若い人からすると、田舎は悪くはないが、マイナスの面が大きいと思うので、プチと付けるくらいなら、思い切って田舎にした方が良いと思う。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光まちづくりという言葉が浸透しているという話を聞いて、2年前に國學院大學にまちづくり学部が新しく新設されて、今全体的にこの話題がトレンドだと思う。実際に歩いてみるというのが大事だと思っていて、20年生きていて、小平市の良いところもあるし、実際に住んでみて物足りないこともあるので、今後意見として出していきたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが中学生になり、子どもを持つ母親の視点での感想として、子どもの時から、このまちのここが良い、ここが誇れるというのを知っていると、子どものアイデンティティー形成に関わってきて、市の中で遊んだ体験が大人になって、小平市がすごく良いとか、結婚した時に小平市に住みなおしたり、そういう広がりが出てくるので、そういう視点でまちづく</li> </ul>

	<p>りを推進していけば良いと思う。自分の子どもと色んな所を歩いて、知ったりするので、そういうこともすごく大事だと思う。学生の時に、学校だけで終わってしまうと、離れてしまうが、学生時代にした経験や、出来た繋がりによって、ここに住みたいと思ってもらえるとので、そういう取組を学生と出来ればよいと思う。</p>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平市は熱心にこういう活動をしていて、この熱を沿線に伝えていかなければいけないと、重責を感じています。県庁所在地の会議に出席したことがあるが、そういう所は材料が豊富で、何を取捨選択するかという贅沢な会議だったが、こうやって見つけていって、歩かないと好きにならないということで、私も6月の紫陽花の季節で、グリーンロードを毎週末ランニングしたが、そうすると愛着が湧き、そういうことで好きにならないと、この熱は発していけないと思うので、その責任をしっかりと感じながら1年間努めていきたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は観光まちづくりということの理解が深まったことが有難かった。観光とは何なのかをいつも問われてきたので、出発点の所でお伝え出来て良かったと思っている。プチ田舎という言葉に関しては、常々議論がありますが、議論があることが大事で、様々な行政のプランがあるが、添えられたキャッチフレーズの中で、プチ田舎ほど色んな人に意見を巻き起こしたワードはないと思っていて、それはそれで大事で、ザラっと引っ掛かりがあるのもいいと思う。サラッとした記憶に残らないキーワードでもいいかもしれないが、その辺も含めて議論できればと思う。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光という言葉の中に、光という字があり、これは意外と重要で、光があって初めて観えるのであって、観るということと、体験することの関係を言っているのではないかと思う。小平ならではの共通理解、議論を通して深め、周囲の人にも伝えていただけたらと思う。</li> </ul>